

しっかり管理し品質守る

～令和3年産田植え開始～

J A管内で、5月中旬から下旬にかけて田植え作業が行われました。令和3年産は青天の霹靂が921畝、まっしぐらが2730畝、つがるロマンが657畝の作付けを予定しています。

尾上地区の工藤憲男さんは5月15日、青天の霹靂の特別栽培米の田植えをしました。4月14日に播種し、草丈15センチ程度、葉齢3葉程度と生育順調な苗を後継者の憲児さんが植えました。工藤憲男さんは「品質を低下させないよう基本を守って管理し、今年も消費者に喜ばれる米を作りたい」と話しました。

青森県特別栽培農産物認証制度での米生産は、化学肥料の使用を慣行の5割以下とし、有機肥料5割以上を施す。農薬使用回数（成分）は、「青天の霹靂」の栽培基準となっている慣行の1/2以内である10成分より少ない8成分で栽培します。



田植えをする工藤憲児さん

適期を見極めて

～ぶどう栽培講習会～

ぶどう生産部会（山口辰弘部会長）は6月4日、J Aぶどう生産販売対策協議会が開いた栽培講習会に参加しました。部会員約20人が参加し、高品質のぶどう生産のため、今後の栽培管理を学びました。

中南地域県民局農林水産部農業普及振興室の白川真美子主幹が講師を務め、生育状況や栽培管理について説明。「園地によって生育にバラつきがあるため、各自で状況を把握することが重要。適期をしっかり見極め、摘心作業や今後の管理に努めてほしい」と説明しました。



今後の栽培管理を学ぶ部会員

実用化に向けて検証

～ドローン水稲直播栽培試験～

尾上基幹グリーンセンターは5月12日、尾上地区の水田で農業用ドローンによる水稲直播栽培の試験を実施しました。取り扱いメーカーの社員がドローンを操縦し、「まっしぐら」の種子をドローンのタンクに入れて水田約20畝に蒔きました。播種後は、初期除草剤をドローンの自動操縦モードを活用して散布しました。

今後は収穫期まで生育調査を行い、発芽率や品質、収量、収益性などを検証します。



ドローンで播種するメーカー社員